

# 報告

## 第3回“宇宙(天文)を学べる大学”合同進学説明会の報告 ～研究室ってどんなところ？ 研究者ってどんな人？～

成田直（川西市立北陵小学校）、有本淳一（京都市立塔南高校）、河野明里（貝塚市立西小学校）、定金晃三（大阪教育大学）、福江純（大阪教育大学）、松本桂（大阪教育大学）、渡辺謙仁（大阪教育大学）、渡部義弥（大阪市立科学館）

### 1. はじめに

近畿支部では2010年6月12日(土)に「第3回“宇宙(天文)を学べる大学”合同進学説明会」を大阪市立科学館において会場との共催という形で開催した。今回も一般会員の研究発表の場は設けず、説明会のみとした。

宇宙(天文)を学べる大学の合同説明会は、ここ数年で全国的（中国地方、九州地方、東北地方）に開催されるようになってきており、今後も開催を検討している地方があると聞く。熱心な学生を取り込みたい大学側と、自分の学びたいことがどこで学べるのかを知りたい学生（受験生）側のニーズがマッチして広がっているということだろう。実際、小学校教員である筆者が学級通信で今回の説明会の宣伝をしたところ、小学生ですら（そして保護者も）興味を持ってきている。

### 2. 広報活動

3回目となった今回の合同進学説明会では、前回までの反省から出てきた“広報不足”の解消に力を入れたので書いておく。

主な対象である高校には、大阪府下の学校と近畿圏のSSH指定校にアナウンスした。また前回の参加者に予備校生も含まれていたことから主な予備校にも資料を送付した。加えて科学系雑誌や関連するML、新聞社にもアナウンスし、さらに本会や大阪市立科学館、参加大学のホームページ、twitterなどで広報活動を行なっていただいた。

また、今回は大阪府教育委員会と大阪市教育委員会の後援を取り付けることに成功した。これによって本イベントの信頼性が高まったと思っている。しかし、これにはいくつもの書類と印鑑が必要で、なかなか顔を合わせての打ち合わせができない開催スタッフとしては大変だった。この件については福江純氏(大阪教育大学)に大変ご尽力いただいた。なお、こういった後援は一度取り付けると今後は手続きが楽になるはずである。

このように、今回はより多くの方面へ様々なツールを利用して広く告知すると同時に、教育委員会からの後援を取り付けることでイベントの信頼性を高めて当日に臨んだ。

### 3. 参加大学

今回は過去最多の20大学に参加いただいた。参加大学は以下の通り。(あいうえお順)

愛媛大学理学部、茨城大学理学部、大阪教育大学教育学部、大阪市立大学理学部、大阪大学理学部、大阪府立大学理学部、鹿児島大学理学部、京都産業大学理学部、京都大学理学部、近畿大学理工学部、甲南大学理工学部、神戸大学理学部、埼玉大学教育学部（ポスターのみ）、筑波大学理工学群、奈良女子大学理学部、広島大学理学部、山形大学理学部（ポスターのみ）、立命館大学理工学部、和歌山大学宇宙教育研究所

関西での開催にも関わらず、北は山形、南は鹿児島からの参加があったわけで、大学側の熱意が伝わってくる。

#### 4. 当日の様子

当日は各大学による7分間のプレゼンとランチタイムを兼ねたポスターセッションによって構成した。ポスターセッションでは、さすがこのようなイベントに足を運んでくれる参加者だけあって積極的に大学の先生方に質問をしていた。

イベントの最後には講演会を設定し、石原秀樹氏(大阪市立大学)「ブラックホールの物理学」と村岡和幸氏(大阪府立大学)「サブミリ波が描き出す新しい宇宙の姿」のお二方に講演していただいた。

なお、当日の様子は渡辺謙仁氏(大阪教育大学)によってニコニコ生放送によるLIVE中継[1]が実現し、5000人近くに視聴された。録画したものは本会ホームページからリンクが貼られている。[2]



図1 会場風景

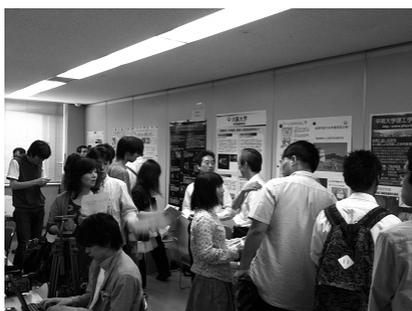


図2 ポスターセッション

#### 5. ニコニコ生放送について

先ほども書いたように、当日の様子はニコニコ生放送によるLIVE中継[1]が行なわれた。5000人近くに視聴され、15000以上のコメントがつけられた。天文に関わるイベントで今回のような生中継が行なわれたのは今のところ報告されていないと思うので、渡辺氏による事後の分析結果をいくつか記しておくことにする。

- ・ 準備期間が短く、ニコニコ生放送の双方向性が十分に発揮できなかった。質問タイムの際にコメント付きの再生画面を会場のスクリーンに映せば双方向性や一体感が生まれて面白かったかもしれない。
- ・ コメントの内容から、大学紹介パートでは大学院生の視聴者が多かったように思われる。また講演会パートではより若い視聴者が多かったように思われる。これらは前日に天文学会のMLで告知したことや、講演会パートについてはニコニコ生放送の公式放送としてニコニコ動画のトップページで告知されたからではないかと考えられる。

また、本会会員の作花氏がこの中継をご覧になっておられ、動画中継でも十分な臨場感があったとの感想を寄せてくださっている。これは、視聴者が中継中にコメントを付けられるニコニコ生放送の機能や、出演者がコメントに反応することが、動画中継では低下しがちな他の視聴者や出演者の存在感を高めたからであろう。

今後、今回のようなイベントの動画中継という形式は、会場まで足を運ばない方や会場まで行くほどではないが少し興味があるといった方への発信能力を大いに秘めていると考えられる。

渡辺氏による詳しい分析結果を待って、より有意義な方法を模索していきたい。[3]



図3 ニコニコ生放送配信の様子

## 6. 参加者について

広報活動の成果もあってか、参加者数は過去最高の66人にのぼった。高校生ら学生の参加者が40人(内訳:中学生3、高校生32、予備校生1、専門学校生1、大学生3)、先生や保護者ら一般の参加者が26人あり、昨年の約2倍となった。中には雑誌「星ナビ」によるアナウンスを見て関東から参加してくれた受験生(予備校生)もいた。

## 7. おわりに

これまで3回実施してきて、着実に規模が大きくなってきている。今回、広報活動に力を入れたことによって参加者数は増加した。これまで情報が届いていなかっただけで、潜在的なニーズはまだまだあるという証拠だろう。次回以降さらに計画的に広く情報を行き渡らせることができれば、もっと参加者が増えると思われる。そしてそれは天文学を学ぶ学生が増えることにも直結してくるのだ。

しかし一方で、課題も見えてきた。参加人数が増えるに伴って現在の会場では狭くなってきている。ポスターを貼るスペースは今回でいっぱいだったし、プレゼンには立ち見も

出た。今後さらに増えると思われる参加者数に対応するには、新たな開催場所を模索していかなければならないだろう。また、今回まで開催スタッフが近畿支部委員と大阪教育大学の教員や学生だけで構成されていたということも、今後の規模の拡大を考慮するとそろそろ限界かもしれない。息の長いイベントにするには、いろいろな人が関わるべきであろう。

幸いにして、最近の学生(子ども)は野口宇宙飛行士や山崎宇宙飛行士の活躍、はやぶさの帰還などで宇宙の話題に触れる機会が多い。見えてきた課題をクリアして、宇宙に興味を持った学生(子ども)とそれを学ぶことができる環境をマッチングさせてやることは、我々の大切な使命だと思っている。

## 参考文献

福江 純他(2010)「第3回「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会」出張オープンキャンパス～研究室ってどんなところ？ 研究者ってどんな人？～, 天文月報

[1] <http://live.nicovideo.jp/gate/lv19000409>

[2] <http://www.tenkyo.net/shibu/kinki/20100612/100612file.html>

[3] 第24回天文教育研究会集録(2010)

成田 直